



日本キリスト教保育所同盟(題字 前理事長・木村量好)

THE ASSOCIATION OF CHRISTIAN NURSERIES IN JAPAN

事務局 かがわ子ども・子育て支援センター 神愛館 〒762-0056 香川県坂出市中央町8番58号  
発行責任者 理事長 新井 純

## 日本キリスト教保育所同盟 「夏季保育大学inおきなわ」講演Ⅱ

2018.8.22

沖縄県国頭村立 北国小学校校長 金城明美

おきなわ・メッセージ 絵本『つるちゃん』のあとがきより

## つるちゃんの沖縄戦

つるちゃんがさとうきび畑やいも畑に行って、美味しい「じゅうしい（沖縄風のぞうすい）」を食べながら、父ちゃんのかつぐ天秤にのっていたころ、遠い南の島では、もう戦争が始まっていました。しかしつるちゃんは何も知りませんでした。

中城一帯は、まさに戦場となっていました。つるちゃん一家も、山道を南へ南へと逃げたのです。

5月末、やっとたどり着いた南風原の陸軍病院豪でつるちゃんたちが見たものは、重傷病兵と入り口近くに縮こまるように隠れる住民たちの姿でした。首里の軍司令部・球（たま）部隊はすでに摩文仁へ後退していました。

家族が次々と亡くなる中、つるちゃんたちはなおも日本兵の後を追うように、南へと逃げたのです。もし東寄りの知念半島側に逃げていたらと、今でも悔やまれます。

米須をぬけ、喜屋武をさまよい、摩文仁あたりの海岸へ降りてガマ（小穴）に隠れたときは、日本軍の組織的抵抗が終わったとされる6月23日を過ぎていました。

つるちゃんと親戚のねーねー（養女に行った実の姉）は捕虜になり、宜野座に移されたのは、夏。

一週間後にはねーねーは亡くなり、気が付くとつるちゃんはひとりぼっちでした。さとうきび畑も楽しかった思い出も何もかも消えてしまいました。

これがつるちゃんが見てきた忘れられない出来事、沖縄戦だったのです。

## その後

つるちゃんは捕虜収容所で過ごし、看護婦らしき人に助けられます。

中城に戻ってからは、働くことで精一杯でした。勉強どころではありませんでした。那覇で出稼ぎをしたり、基地の中で働いたりしながら生きていました。当時、生き残った人々は誰もが必至で生活していました。

## 母の想い

幼いころ、母はよく私に戦争のことを話してくれました。それはとても悲しい出来事で、人が死んで行くさまの残酷さを感じました。母は涙しながら語り、何度も繰り返し話してくれました。戦争を知らない私は、母と一緒に目を赤くしながら聞いていました。母の体験は沖縄戦に巻き込まれた住民がたどった、悲惨な出来事の一つだったのです。

母は娘の私から見ても、面倒見がよく、明るい性格の持ち主です。人に気まずい思いをさせることのない母の普段の言動からは、過去につらい体験をしてきた様子をうかがい知ることは出来ません。

## 水筒の絵

逃げる時に出会った兵隊さんとの出来事を描いています。足の動かなくなった兵隊さんにつるちゃんは水筒を渡してあげますが、兵隊さんは水を飲もうとした時、鉄砲の弾に当たって亡くなつたそうです。絵のメッセージは絵本ならではのものです。こうして出来上がったのが、絵本『つるちゃん』です。

## ～栄子さんの想い～

平田千悦子

今日講演予定だった眞榮城栄子先生は、約40年にわたり絵本、紙芝居の普及活動を実践しています。子どもたちに、お話を通して平和を伝えていくということをライフワークにしています。

私達の出会いは18年前で、栄子さんの絵本の店、アルムに本を買いに行ったことがきっかけでした。その時から読み聞かせのイベントなどに参加するようになりました。県内の保育園、幼稚園、小学校、支援学校など、お話し会の依頼があると私も一緒に行き、絵本を読んだりするようになりました。ある時、栄子さんから「私の持っているもの、すべてあげるから、あとを継いでちょうだい」と言われました。私はびっくりしました。そんなことができるのだろうか…けれども栄子さんは真剣な眼差しで、「人は歳をとるものだし、いつかはバトンを渡さないといけない。沖縄の子どもたちのために、あとを継いでちょうだい。」そう言いました。その時から、必死に栄子さんの背中を追い、今では右足くらいになれたのかしら…と思っている自称、一番弟子です。

栄子さんが引退する時に、県内の短大と専門学校の非常勤講師を引き継ぐことになりました。そして、あいた時間は保育士をしています。学生に保育現場のことを話し、「保育士になりたい」という気持ちを強く持つもらえたから…と願っています。

今から「みんなでぼん！」（まついのりこ脚本・画／童心社）の紙芝居を演じます。どの作品にも作者の伝えたい想い、メッセージがあります。この紙芝居の大好きなメッセージは、小人は人間、ロボットは文明、おばけは亡くなった人の魂、想像の世界です。この三つが合わさったことが児童文化の理想とするところと、まついさんは考えていました。

以前、まついさんを、沖縄にお招きしたことがあります。その時に話していたことが今でも忘れられません。「人は誰でも、今より成長したい、よりよく生きたいと思うものなのよ。世の中には、まがいものがたくさんあります。でも、本物は必ずあるから、本物を見抜く目を持って下さい。」とおっしゃっていました。

この話を聞き、作品をただ演じればいいのではなく、そのメッセージを自分なりに受けとめ、子どもたちに手渡していくたいと考えるようになりました。これは、保育をするうえでも、とても大事なことだと思います。

最後に小人とロボットがやってきて、おばけと手をつなぎます。思わず、「みんな、なかよし！」と言いたくなります。皆さんも今日、初めて出会った人がたくさんいると思います。お隣の人と手をつないでみてください。沖縄には、「いちゃりぱちょーでー」という言葉があります。（出会えば、みな兄弟）と言う意味です。今日から三日間、皆さんも仲良くなり研修を楽しんで下さい。学びの多い研修になることを願います。

次に演じる紙芝居は「カチャーシーをおどろよう」（眞榮城栄子脚本・まついのりこ画／童心社）です。この紙芝居の作者は、栄子さんです。絵を描いたのは、まついのりこさんです。

皆さんは、カチャーシーを知っていますか？カチャーシーは沖縄の大変な文化で、お祝いの時に幸せを願い、喜びを表す踊りです。作品には沖縄の大変な生き物がたくさん登場します。そして、それぞれ、踊り方や、かけ声が違います。それは栄子さんの、おじいさんやお婆さん、おじさんなど身近な方がモデルになっています。どんな踊りをするのか楽しみにしていて下さい。

他に、かりゆしの海（まついのりこ 脚本・絵 / 横井謙典 写真・童心社）とんとんからり とんからり（鎌田 佐多子 脚本／仲地 のぶひで 絵・童心社）は沖縄紙芝居三部作で、まついのりこさんも作品制作にかかわっています。

栄子さんは、いつも話しています。「子どもたちに、生の声を通してお話を聞かせることで平和を伝えていきたい」と。皆さんはどのように平和のバトンを子どもたちに手渡していきたいですか。

## 「第60回夏季保育大学inおきなわ大会」を終えて

第60回大会実行委員長 玉 城 智 彦

第60回夏季保育大学は、「平和ってすてきだね」のテーマで、8月22日から24日の3日間、沖縄県那覇市にて開催されました。大会直前に台風19号、20号と発生して開催、参加が危ぶまれましたが、日本全国から230名余りが来沖し、大会中は天気にも恵まれ無事終えることが出来ました。感謝申し上げます。

### { 講 演 I }

事実から考え直す「沖縄基地問題」専門家の沖縄国際大学教授佐藤学先生に、ご講演いただきました。米国公文書資料をみるとベトナム戦争12年間で、米兵隊戦死者1万余だったのに対し、沖縄地上戦では3ヶ月で米兵隊戦死者1万余でした。沖縄南北120kmの小さな島で、地上戦がいかに熾烈な戦争であったかを明らかにされました。国際的に比較されたことは、衝撃的な学びとなりました。佐藤先生の現状の沖縄の講話をもっと聞きたいと参加者からの意見がありました。

フィールドワークC 嘉数高台より



### { 講 演 II }

フィールドワークC チビチリガマより



大会資料に掲載されました「子どもたちに平和のバトンを」講師 眞榮城栄子先生が体調不良のため、急遽、国頭村立北国小学校校長 金城明美先生、絵本『つるちゃん』の原作者が講話されました。『つるちゃん』は、沖縄の戦争を母から聞いた実話を元に、子どもたちが戦争を理解できるようにと絵本で表現されたとのこと。パネルシアターでは、金城明美先生の「かたり」と「バックミュージック」が絶妙で良かったとの参加者から感想がありました。また、眞榮城先生と一緒に活動しておられる平田千悦子氏が、大型紙芝居で、「カチャーシーをおどろうよ」を読み聞かせをして下さいました。

※詳しくは1ページにも載せています。

### { フィールドワーク }

フィールドワークD 石川・宮森630会



A：首里めぐり沖縄戦をこえて伝える平和、B：南部戦跡追体験めぐり、C：中部基地めぐり、D：北部基地めぐり、E：美ら海水族館ジンベエザメとイルカショーの体験学習でした。Eコースは小さなお子さま連れの参加者向けに、またA～Dは沖縄戦の戦地を巡ったり、現在の基地事情を見学しました。県外の方々に沖縄の基地の多さを感じとっていただけたのではないかと思う。また当

日は曇り空で陽射しも弱く、絶好のお出かけ日よりでした。

### { 平和コンサート }

「月桃」「キセンバル」「さとうきびの花」等の作詩作曲を手掛けた海勢頭豊さんに、沖縄を題材とした曲のコンサートをお願いしました。戦争から平和世（へいわゆー）へ導かれるようなコンサートになりました。

### { 大会オープニング、懇親会 }

沖縄大会実行委員会のみなさん



オープニングでは、沖縄地区の保育園から15名の保育士が「阿麻和利」という創作演舞を披露しました。懇親会では、古武道太鼓集団「風之舞」によりますエイサーの演舞や、沖縄の地酒 泡盛を泡盛の女王から紹介していただきました。キ保同のテーマでもあります「いのち・人権・平和」を共に学びを共有することが出来ましたところ、実行委員会一同、心よりお礼と感謝を申し上げます。

◎開会から閉会までキ保同のテーマであります「いのち・人権・平和」について皆様と学びを共有することが出来ましたこと、実行委員会一同心よりお礼と感謝申し上げます。

なお、席上献金 132,945円は（宮森小ジェット機墜落事件を語り継ぐ）石川・宮森630会に寄付させていただきました。感謝申し上げます。

8月に沖縄で開催された夏季保育大学で、以前、「山びこ」でエピソードを掲載させていただいたシャローム保育園の園長先生にお会いしました。エピソード研修から園内研究が深まったとの嬉しい報告をお受けしましたので、シャローム保育園の近況を報告していただきます。

## ＜園内研究を通して＞

シャローム保育園 小 林 みぎわ

シャローム保育園では、10年ほど前から『保護者支援』をテーマに園内研究を進めてきました。

2018年度に全私保連で研究発表することになり、さらに『保護者支援』について、学びを深める機会が与えられました。

気になる子どもやその家庭について、どう支援していくかを考え、実践をしていく中で、職員の意識の中に“保護者支援とは保護者だけを支援すること”であり、“保護者の質問に答え、依存を受け入れること、またアドバイスをし、教え導くことである”と理解している人が多いことに気づきました。

保護者支援とは、保護者と子どもを切り離して考えるものではなく、子どもが健やかに育っていくためのものであることを理解していく必要があること、そのためには、実践内容を見直し、子ども理解を深めることから始めなければならないと思いました。

わが園の方針である“一人ひとりを大切にすること”は、頭では分かっていても保育に繋がっていないのでは、と感じていたちょうどその時、沖縄県で開催された「保育従事者研修会」で、キ保同の「ミッションステートメント」と「エピソード記述」を学ぶことになりました。

そこで学んだエピソード記述を用いて、子どもの姿を読み取り、子ども理解を深めることにしました。エピソードを書くことで、客観的に子どもの姿を捉え、保育者としてどのような気持ちで子どもに関わったのかを整理することができました。また、そのエピソードを小グループで分かち合うことで、子どもを多角的に捉えることが可能となり、子ども理解が深まりました。子どもの問題行動や気になる行動があったとしても、日々の保育に追われ流していたことも、気にするようになり、子どもや保護者への関わりも増えました。

この研究を進める中で、園長として、“保護者支援への理解を深め、足並みを揃えること”に目標を立てていましたが、今の私たちには足並みを揃えることが目標ではなく、“目の前にいる子ども一人ひとりを理解し、子どもの育ちを保障すること”が最優先であることに気づかされました。また、“子どもも保護者も保育者も、一人ひとりの個性を認め合い、支え合い、助け合うことが大切なのだ”と気づくことができました。

これからも、エピソード記述に取り組みながら、子どもの幸せを願い、保護者とともに育ちあえるパートナーとなるよう保育を紡ぎ、みんなが安心できる居場所となれる保育園づくりを目指していきたいと思います。

キーワード： 平和

園名： 社会福祉法人 イエス団 天使保育園

地区名： 大阪地区

名前： 守屋麻実（保育士）

### 「僕を見て関わって」

#### 《背景》

Sくんは4月生まれの1歳児の男の子。クラスで1番月齢が高く、体格も良い。戸外遊びや体育器具が好きで、言葉もたくさん出ているが、じっとしている事が苦手で、理解力はあるが気持ちのコントロールが難しい。玩具の扱いが雑であり、踏みつけてしまったり、投げてしまったりする事が多いので、大切にするよう知らせている。トラブルが多く物の取り合いや何もなくても叩いたりぶつかったりする事が多いが、友だちの事は好きな様子。とても甘えん坊で保育者との1対1の関わりが好きである。

#### 《エピソード》

ある日のコーナー遊びの時の事。Sくんはその日もお気に入りの絵本を足で踏んで、手には違う絵本を持っていた。私はその姿を見て“また踏んでる！”と思い、Sくんに大切に扱ってほしい事を知らせようと思った。

私：「Sくん、絵本踏んだら痛いって言ってるで？」

Sくんは何も言わず、私を見つめて笑っているので、足元にある絵本を拾い、絵本を見せた。

私：「Sくん、その絵本読む？片付ける？」

S：「いやー。Sくんの！」との返事。「そうやったら、大切にしてあげないと、踏んだらいやって、痛いって言ってるで」と伝えると、Sくんは「はーい！」と返事してくれたので、「素敵！じゃあ、どうぞ」と手渡した。他の子どもに排泄を促したり、トラブルの仲裁にいったりした後、Sくんを見ると、また絵本を踏んでいたので、「Sくん」と呼ぶと、Sくんは言われるのを分かっているような様子で、「はーい！」と応え、すぐに絵本を手に持ち、部屋を走りだした。私は絵本を持ったまま走ると危険なのでSくんに駆け寄り、「Sくん、絵本持って走ったら、Sくん怪我して痛くなるよ。Sくん、絵本読みたかったん？先生と一緒に見る？」と言うと、嬉しそうに「うん！」と言い、絵本コーナーへ行った。Sくんが私の膝の上で楽しそうに見ていたので、他児が集まり、一緒に絵本を見ようしたら、Sくんは、「Sくんのー！」と大きな声で訴えた。私はその姿を見て、「分かってるよ。でも、他のお友だちも見たいって言ってるで」と言うと、Sくんは「いやや！Sくんのー！」と言ったので、他児には、「今、Sくん見てるからあかんねん」と伝えた。Sくんに、「今はSくんが見てるから、待ってるね。次、Sくん、おしまいいたら順番こしてくれる？」と伝えると、Sくんも「うん！」と言ってくれた。他児に順番を伝えると理解してくれていた。Sくんと他児に、「貸してくれるって！Sくんありがとう！」と伝えると、Sくんは嬉しそうに笑っていた。

絵本を読み終わり、他児がSくんに絵本を貸してくれるよう言うと、「Sくんの絵本ー！！」と大号泣した。私は、まだ見たかった気持ちがあり、貸す事に納得いっていないのだと思い、「まだ見たかったん？」と尋ねると、「うん。」と言ったので、「Sくんがおしまいになったら教えてくれる？」と聞くと、Sくんは「うん！」と言った。他児には申し訳ないが、違う絵本を見て順番を待った。その時、Sくんはその絵本を持ってまた走りだして投げたので、「Sくん、それはお約束してたことと違う。Sくんが絵本おしまいするのを待ってたよ。絵本も投げたら痛いって言ってるよ。」と伝えると、Sくんは「ごめんね。」と私と絵本に謝ってくれた。

### 《考 察》

保育者との関わりが大好きなSくんなので、私と1対1でゆっくり絵本を見たかったのに、私が他の子と関わったり、傍を離れてしまったりしたので、私に自分で見てほしいという気持ちの表現だったのかもしれない。また、日々同じ事を繰り返し伝えている事もあり、「高月齢だし、何回も伝えているから分かって欲しい」という私の思いが強かったのだと思う。

私は、玩具が落ちていても、どんどん踏んでいくSくんの姿から、絵本を踏むのは大事にしていないと感じてしまったが、Sくんは絵本を自分の物にしたい、という気持ちが強いため“雑に扱っていたわけではなかったのかも”と気付く事が出来た。踏んでいるから大事にしていなくて、手に持っているから大事にしているという大人の目線や固定概念にだけとらわれているので、子どもの本当の気持ちが見えなかつたのだと思った。

月齢や固定概念にとらわれず、子ども一人ひとりをしっかり見て、今何を求めているか、どういった関わりが必要かと感じながら保育していきたいと思った。

### 聖書：

「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」

(ローマの信徒への手紙 10章 8節)

今回のエピソードは、2018年1月に開催されたスキルアップ研修会でのエピソードです。

言葉がわかって返答するものの、気持ちは違うという1歳児の姿が見えます。「はい」と言ったのだから、ちゃんと約束を果たすのが当然と思ってしまう保育者に対して、自分の思いを行動にしてしまう子どもとのすれ違いが描き出されています。保育者が、自分の価値観や思いに気づいていると、子どもへの理解が深まり、子どもの姿がマイナスからプラスの視点へと変えていくことを教えてくれるエピソードでした。

(保育研究会 委員 森本宮仁子)

## 「♪海や森、空も清めば、わが心はヤンバルの地に♪」パート8

沖縄県本部町 高垣喜三

### 辺野古へのなりふり構わぬ石材の搬入に防衛局の焦りを見る

「ハイサイ！グスーショ チューウガナビラ」（みなさん！こんにちは）

これは、去る8月8日にすい臓がんのため急逝された翁長雄志<sup>おながたけし</sup>沖縄県知事が集会での挨拶や演説の冒頭にいつも私たち県民に呼びかけられた言葉です。

### 命を削って「辺野古新基地建設」に抗い続けた翁長雄志知事

あまりにも突然の訃報にすべての県民は驚き、悲しみに包まれました。

国土の0.6%に過ぎない沖縄に、70%を超える米軍基地を押し付けられているという過重負担に反対し、さらに辺野古への新基地建設反対、欠陥機オスプレイの普天間基地配備撤回等を掲げた文字通りオール沖縄による政府への「建白書」提出の先頭に立ち、また仲井眞前知事の県民への裏切りに対して、当時那覇市長であった翁長さんは、決然と「建白書」の実現を掲げ知事選に打って出て10万票の差をつけ勝利しました。ちょうど4年前の11月でした。

そして、その後前知事の「辺野古新基地建設のための埋立承認」の取り消し、国との裁判闘争、その後の、埋立承認時の留意事項を全く無視した工法や工事手順の変更、取るべき環境保護策を抜きにした石材投下、護岸建設による辺野古の海の囲い込みに対して、再三にわたり工事の停止、県との協議を要請、通告するなど政府・防衛省と真っ向から対決してきました。まさに「ぶれない知事」としての姿を私たちに示してくれました。

「うちなーんちゅ、うしぇーていいびらんどー」翁長知事のことばで「沖縄の人をないがしろにしてはいけませんよ」という意味です。沖縄での流行語にも取り上げられた言葉です。沖縄の民意を踏みにじり建設を強行する政府や国民に向けて呼び掛けられたこの言葉。ウチナンチュとしてのアイデンティティーからほとばしる叫びでした。

翁長知事が亡くなられる12日前の7月27日、前知事の辺野古新基地建設のための埋立承認の撤回の手続きに入ることを表明しました。

○沖縄防衛局は、全体の実施設計や環境保全対策を示すこともなく公有水面埋め立て工事に着工し、また、サンゴ類を事前に移植することなく工事に着工するなど、承認を得ないで環境保全図書の記載等と異なる方法で工事を実施している。

○埋め立て承認時の条件、留意事項で定められた事業者の義務に違反しているとともに、『環境保全および災害防止に付き十分配慮』という要件も充足されていない。

○沖縄防衛局が実施した土質調査により、護岸設計箇所に軟弱地盤があり護岸の倒壊などの危険性があることが判明した。また、活断層の存在が専門家から指摘された。

○米国防総省は航空機の安全な航行のため飛行場周辺の高さ制限を設定しているが、国立沖縄工業高等専門学校の校舎などの既存の建物等が辺野古新基地が完成した場合には高さ制限に抵触することが判明。等々、承認時には明らかにされていなかった事実が判明したとして、さらに「本当に傍若無人なこれまでの工事状況」に加え8月17日にも土砂を投入するとの絶対に許すことができない局面を前に『承認撤回』

に踏み出したのです。

この日の記者会見に向かう廊下でしばらく椅子に座り休まざるを得ないほどに体力は限界にきており、関係者は会見をやりきれるかどうか固唾をのんで見守っていたといいます。しかし、知事は30分を超える会見と質疑をしっかりとやり通したのです。表明の中で「いつかまた切り捨てられる沖縄でいいのか」と語り、また、会見の最後の質疑で、某本土メディアが“承認撤回をしても裁判に負けると最後のカードも力を持たない。どうして止めることができるのか。”といった趣旨のことを質問した。これに対し知事は、「アジアが大きく変わりつつあること、日本だけが寄り添うようにして米国とやっている。今の日本の動きではアジアから閉め出されるのではないかというものを感じている。」と逆にたしなめるような言葉もあったのです。

### 翁長知事の遺志を引き継ぎ新基地建設断念までたたかい抜く

命を削り、沖縄と日本の将来を見据え、理不尽な安倍政権と対決した知事でした。

おそらく、自民・公明安倍政権は知事の逝去にはほくそ笑んでいることでしょう。

しかし、某有名俳優の死去にはコメントを出しながら、日本の現役知事の急逝には一言の言葉もない安倍晋三なんかに負けられないと、そして、今こそ民意を背景にたたかい続けた知事の遺志を無駄にするわけにはいかないと、辺野古現地には多くの県民が駆けつけ土砂投入への警戒を続けてきました。



8月11日に奥武山運動公園で開催された「土砂投入を許さない！ジュゴン・サンゴを守り辺野古新基地建設断念を求める県民大会」には、迫りくる台風14号の雨について目標の3万人を大きく超える7万人の県民市民が結集しました。わが町本部町からもじっとしていられず初めて参加するという方も含め、大型バスに乗りきらない町民が参加しました。

会場は辺野古の海を象徴する青色の上着やタオルなどを身に着けた参加者で埋まり、壇上最前列中央の知事が座るはずだった椅子の上に知事が大会で着用する予定だった青色の帽子がご子息の手によって置かれました。

承認撤回は私の手で行うという知事の決断は叶わなくなつたが、職務執行代理者となった謝花副知事は知事の遺志をしっかりと踏まえ、「毅然と判断する」と決意を述べ、会場からは降りしきる雨音をかき消すかのように拍手が鳴り響いたのでした。

登壇者は異口同音に、翁長知事の遺志を引き継ぎ、諦めることなく新基地建設とたたかい、必ず勝利の報告ができるよう今一度県民力を結集しようと訴え、知事への追悼と決意を固め合う大会となりました。こうした県民の思いの大結集は、政府をして8月17日に予定していた土砂投入を延期させました。政府は台風のため投入準備が遅れたためと言い、また「喪に服する期間」延期するから「撤回も延期」してくれとうそぶく。

私たちは言う。「よくそんなことが言えるもんだ。すぐにでも撤回すべき」

## 「事務局だより」

### ☆バングラデシュ2018

今年も6月17日から閑空を立ち、バンコク経由でバングラデシュに向かいました。毎年6月に訪問しますので、著しい季節の変化が少ないバングラデシュは、いつも蒸し暑い気候で、我々を迎えてくれます。出発までの日本もかなり暑い日が続いていましたが、バングラデシュの暑さは、身にまとわりつくような湿気を含んでいます。



空港到着がすでに日付の変わる時刻でした。ホテルによくやくの思いで到着し、仮眠をとって、昼前にWCB（ワールドコンサーンバングラデシュ）のオフィースを訪問しました。

毎年のことですが、我々の訪問受け入れに感謝を述べ、活動報告を受けました。ミーティング終了後、ウエルカムランチになりましたが、なかなか食事がでてきません。この辺ののんびりさが、我々を試しているようで、心の中で「辛抱辛抱」と、つぶやいています。

今回は久しぶりに保育士が参加してくださいました。そして、初めての園長先生もお一人おられ、ダッカの町の活力ある場所を見学に出かけました。

まずは、バングラデシュの鉄道の要、ダッカ駅に参りました。ちょうどラマダン（断食）明けの休みと重なり、切符を求める人の列が、というより並んでないので、人の塊が、改札前にひしめいています。とても長いホームが、6本以上並んでいました。貨物も、人も一緒くたになっています。線路には、よくもこんなに捨てたなあと思うくらいゴミだらけです。中には、マンゴーの種が芽吹いていたりします。何日も掃除していないことがうかがわれます。（続きは、報告書をお読みください。お楽しみに！）



### ☆第60回夏季保育大学について

8月22日（水）～24日（金）、ダブルツリーbyヒルトン那覇首里城を会場に第60回夏季保育大学がもたれました。参加者は207名でした。詳しくは本文報告をごらんください。第61回は、京都地区が担当して2019年8月21日（水）～23日（金）、琵琶湖ホテル（滋賀県大津市）でもたれます。

### ☆予 告（ご予定ください。）

園 長 研 修 会	2018年10月29日～31日	於. 長崎県上五島、黒島
中堅保育士研修会	2018年11月 7 日～ 9 日	於. 横浜YMCA
スキルアップ研修会	2019年1月22日～23日	於. コミュニティ嵯峨野
理事会、園長研修会	2019年2月12日～13日	於. 箱根

